

一般国道56号 ^{ますだ}増田視距改良と ^{すくも} ^{うちうみ}命の道の事業化（宿毛一内海）について

大洲河川国道事務所 道路管理課 道路管理係長 緒方 玄司
大洲河川国道事務所 建設専門官 東條 眞吾

長年にわたる視距改良事業（交通安全対策事業）の完成までの経過報告と、四国8の字ネットワーク四国横断自動車道「宿毛一内海」の早期事業化（自治体が主催の式典開催）への取り組みについて紹介する。

キーワード 四国8の字ネットワーク、早期事業化、開通式典、自治体主催、交通安全事業

1. はじめに

高知県と愛媛県の県境における唯一の幹線道路である一般国道56号において、約20年にわたる視距改良事業が令和3年12月に完成に至った。

一方、並行する「宿毛内海道路（以下、宿毛一内海）」は四国横断自動車道で唯一の未事業化区間であることから、視距改良事業の開通式典を通じ、地域一体となって新規事業化の機運上昇を図った。

2. 事業の経緯

(1) 視距改良事業

高知県と愛媛県の県境に位置する一般国道56号は、高知県宿毛市・愛媛県愛南町をつなぐ唯一の幹線道路であるが、現道は曲線半径の小さいカーブが連続しており、視認性が悪く、車線逸脱による正面衝突事故により死亡事故等の重大事故が発生していた。

このため、交通事故の防止を図り、安全な交通環境を確保することを目的として、平成12～18年度にかけて愛媛・高知県境を跨ぐ「宿毛一本松改良（事業延長 900m）」を整備。これを皮切りに、平成19～24年度にかけて「一本松視距改良（事業延長 1,200m）」、平成25～令和3年度にかけて「増田視距改良（事業延長 1,200m）」の整備を実施した。（図-1）

約20年にわたる高知県境からの視距改良事業が全線整備完了し供用したことで、当該道路の走行性・視認性が向上し、正面衝突事故など重大事故の低減が今後期待される。（図-2）

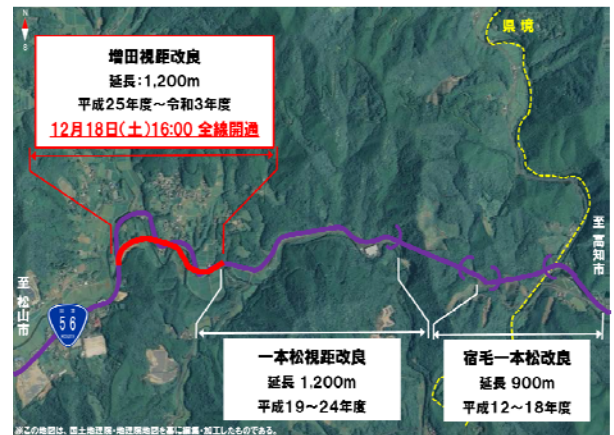


図-1 高知・愛媛県境での視距改良事業の経緯

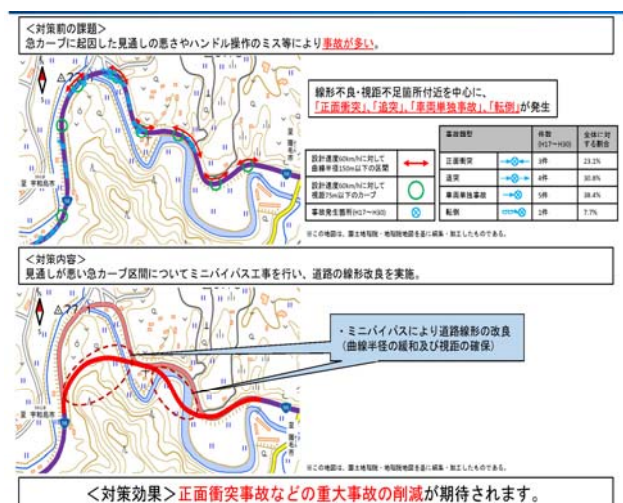


図-2 視距改良事業整備による対策効果

(2) 四国横断自動車道(宿毛-内海)

「四国横断自動車道(宿毛-内海)」は、四国横断自動車道で唯一の未事業化区間であり、当区間が整備されることで、現在大洲河川国道事務所で事業推進中の「津島道路」、中村河川国道事務所管内の「中村宿毛道路(令和2年度供用)」と接続。その結果、自動車専用道路と国道56号とのダブルネットワークが構築されることとなる。(図-3)

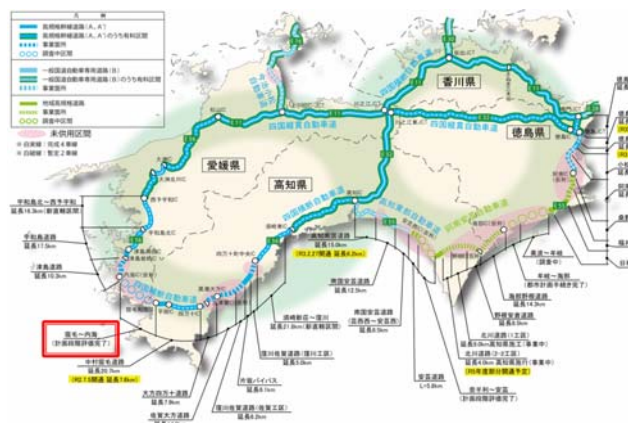


図-3 四国横断自動車道の整備状況(R3. 4. 1時点)

当該事業は、平成28年度より計画段階評価に着手し平成30年度に計画段階評価手続きが完了、令和3年度には都市計画決定がなされている。(写真-1)



写真-1 都市計画決定要請書 手交式の様子

信頼性の高い「四国横断自動車道(宿毛-内海)」の整備によって、四国西南地域における『命の道』として大変重要な役割が期待される。

例えば、地域の課題である南海トラフ地震による津波浸水等発生時に、幹線道路の寸断・地域孤立の解消が期待される。また観光面でも周遊性、空港等への連絡性向上により、交流人口の増加による観光振興に寄与するとともに、定時性確保による物流支援、地場産品の販路拡大による地域経済の活性化に寄与する。

さらに救急搬送時における搬送時間短縮や安静な搬送により、地域医療に大きく貢献することとなる。(図-4)



図-4 四国横断自動車道(宿毛-内海)の整備計画

3. 町主催の式典開催と早期事業化への取り組み

開通式典は新規路線等の大規模な改築事業の供用時に開催されるのが通例であるが、「四国横断自動車道(宿毛-内海)」の新規事業化を強く願う愛南町主催により『「地域づくりは道づくりから」～増田視距改良の完成を祝い、命の道の事業化を目指す～』として、令和3年12月18日に開通式典を開催する運びとなった。(図-5)

Press Release

令和3年12月3日
愛南町

「地域づくりは道づくりから」

～増田視距改良の完成を祝い命の道の事業化を目指す～

国道56号愛南町における増田視距改良事業の完成を祝い、命の道の事業化を目指して、下記のとおり式典を行いますのでお知らせします。

記

1 日 時 令和3年12月18日(土) 10:00～12:00

2 次 第 (別紙-1)

(1) 式 典 10:00～10:30 一本松山村開発センター

(2) 現地セレモニー 11:00～12:00
イベント、テープカット、くす玉開破及び開通パレード等

3 取材方法

(1) 取材される場合は、10日(金)17時までに、別紙-2「取材申込書」を、愛南町建設課までFAXで提出してください。(社名、記者名、連絡先、持込機材等を確認させていただきます。)

(2) 新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで行います。記者の皆様におかれましても、マスクの着用や手指消毒にご協力をお願いします。

(3) 新型コロナウイルスの感染状況及び雨天により、今回お知らせする内容が変更になる場合がありますので、予め御承知ください。

4 問合せ 愛南町 建設課 伊田(いだ) 不在の場合、吉田、濱

電 話 0895-72-1211(代表)

電 話 0895-72-7313(建設課直通)

FAX 0895-72-0924(建設課直通)

※国道56号増田視距改良の開通に関しては、国土交通省大洲河川国道事務所より同時発表の予定。

図-5 愛南町による記者発表(R3.12.3)

(1) 大洲河川国道事務所の取り組み

道路事業主体である大洲河川国道事務所は、愛南町主催の式典を好機と捉え、今回供用する「増田視距改良事業」に加え「四国横断自動車道(宿毛-内海)」について積極的にPR活動を行い、広く事業の必要性を説明することとした。

また式典に先立つイベントとして、令和3年11月19日に地元・一本松保育所の5歳児17名による完成前の路面上へのお絵かき記念イベントを開催し、「あんぜんなみち」の完成を祝った。(写真-2)



写真-2 お絵かき記念イベントの様子(R3. 11. 19)

(2) 式典当日の様子

式典は、降雪による荒天が危ぶまれる中、予定どおり開催された。

式典の来賓として、愛南町出身の県議会議員、地区長とともに、10月に行われた衆議院議員選挙にて初当選した国会議員も急遽サプライズの来賓として迎えた。

祝辞では「鉄道も空港もない愛南町にとって道路はまさに命の道である」旨が多くの方から繰り返し述べられるなど、地域一体で「四国横断自動車道(宿毛-内海)」新規事業化への機運が高まった。

また式典会場内では、両事業の経緯や整備効果を記したパネル展を開催。来賓や参加者に直接説明するとともに、「四国横断自動車道(宿毛-内海)」の整備イメージ動画や地域インタビュー動画を放映する等、早期事業化の必要性を共有した。(写真-3)



写真-3 愛南町長・大洲河川国道事務所長による
国会議員への説明の様子

併せて国が車載カメラで撮影し編集した動画を放映。視距改良整備による走行性向上や走行時間短縮を体感しやすいよう工夫して説明することで、整備の意義を改めて認識していただいた。(写真-4)



写真-4 視距改良事業区間の走行動画放映の様子

なお屋外での現地セレモニー(テープカット、くす玉開披、バルーンリリース、開通パレード)は、降雪予報により急遽屋内での「式典及びテープカットのみ」に変更されたが、式典全体を通して大きなトラブルや遅延は生じず無事閉会した。「増田視距改良」の開通についても予定どおり同日16時に行うことができた。(写真-5)



写真-5 式典でのテープカットの様子

4. その後の状況と今後の課題について

(1) 視距改良区間の状況

コロナ禍もあり未だ交通量は低減した状況ではあるものの、供用から6ヶ月後の令和4年6月時点で、当該路線において死傷者が生じるような重大事故や通行止めが必要となる事象は未だ一件も発生しておらず、当該事業の目的である安全性・定時性・走行性確保の役割を十分果たしている。(写真-6、写真-7)



写真-6 増田視距改良の開通後の様子(上空) (R3. 12. 18)



写真-7 増田視距改良の開通後の様子(地上) (R3. 12. 8)

(2) 四国横断自動車道(宿毛-内海)のその後の状況

今回の式典で機運が高まったことも相まって、「四国横断自動車道(宿毛-内海)」のうち「宿毛新港IC～一本松IC(延長4.7km)」「御荘IC～内海IC(延長7.6km)」が、令和4年度に新規事業化に至った。(図-6、IC名称はいずれも仮称)

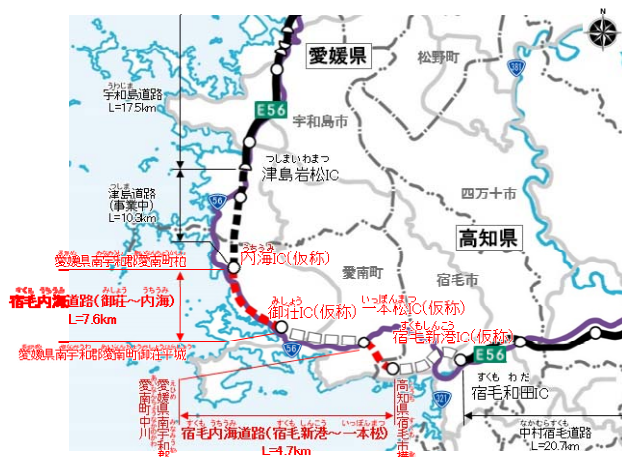


図-6 四国横断自動車道(宿毛-内海)のうち、令和4年度新規事業化区間

(3) 今後の課題・方針について

視距改良事業においては、平成12年度より切れ目無く事業化・事業推進したことで、今回全線開通に至ったものの、結果として計21年間の事業期間を要した。

このことを受け、今後当事務所での交通安全事業に際しては、事業期間の短縮のため、設計段階でのより良い走行ルートや交差点形状の検討に加え、新技術の積極的な活用による生産性向上やBIM/CIMの活用等による合意形成の迅速化を図ることとする。(写真-8)(写真-9)

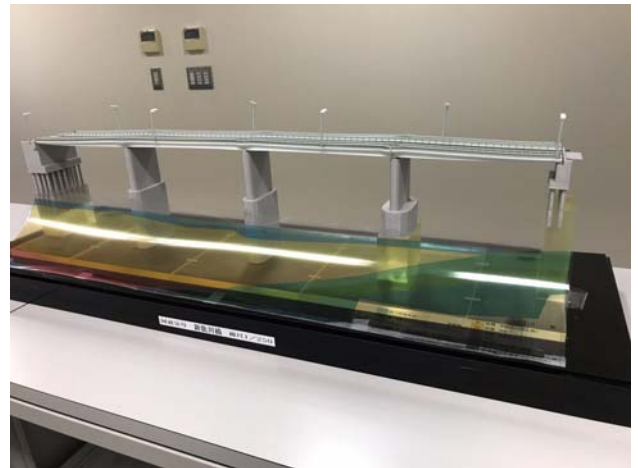


写真-8 整備イメージ共有のための模型作成(例)



写真-9 整備イメージ共有のためのVR作成(例)

また「四国横断自動車道(宿毛-内海)」の残る区間「宿毛和田IC～宿毛新港IC(延長7.1km)」、「一本松IC～城辺IC(延長5.1km)」、「城辺IC～御荘IC(4.7km)」についても、早期事業化に向けて引き続き進めて参りたい。

最後に「四国横断自動車道(宿毛-内海)」の新規事業化や「視距改良事業」の完成にご尽力頂いた愛南町をはじめ、すべての皆さまに紙面を借りて御礼申し上げます。